

外為マンズリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/10/01

米ドルの動向を注視

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円		中国と米国に注目 予想レンジ: 92.600 ~ 97.900 円	2 - 3
NZドル/円		CPIとRBNZ声明に注目 予想レンジ: 82.100 ~ 87.300 円	4 - 5
ランド/円		近くて遠い10円の大台 予想レンジ: 9.300 ~ 10.000 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

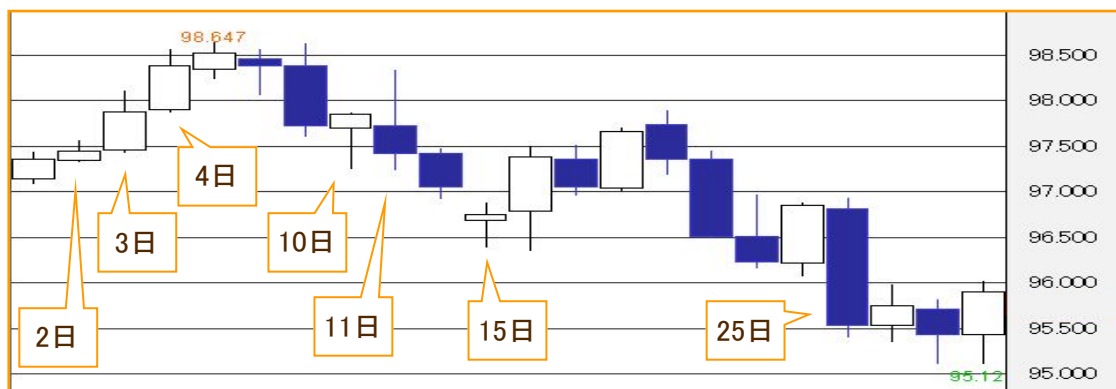
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 9月の推移

AUD/JPY

9月の豪ドル/円相場は95.121～98.647円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.3%の下落(豪ドル安・円高)となった。

序盤はウクライナ情勢に対する過度の緊迫化が後退した事などから、98.647円まで値を上げたが一時的。その後は豪ドル/米ドル相場が下落基調を強めた上、中国景気の減速が懸念された事や、米連邦公開市場委員会(FOMC)声明でのタカ派的な金利見通しを受けてドル買いが強まった(=豪ドル/米ドル相場が一段と下落)事などが重石となり、豪ドル/円は軟調に推移した。



四本値

OPEN	97.144
HIGH	98.647
LOW	95.121
CLOSE	95.903

2日	本邦の内閣改造に絡み、(公的年金改革に前向きな)塩崎氏が厚労相で入閣へと報じられた事を受け、株高・円安が進行。豪ドル/円は97.564円まで上昇した。なお、豪準備銀行(RBA)理事会は市場予想通り政策金利の据え置き(2.50%)を決定し、その際に発表された声明文は前月とあまり変わらない内容であったため、反応は限定的であった。
3日	豪第2四半期国内総生産(GDP)が前期比+0.5%、前年比+3.1%と予想(+0.4%、+3.0%)を上回る伸びとなった事を受け、豪ドル/円は一時97.782円まで上昇。その後はプーチン露大統領の「ポロシェンコ大統領と会談し、ウクライナの戦闘終結に向けた対策について見解を共有」などの発言によりウクライナ情勢不安が後退。これを好感して欧州株が堅調に推移すると、昨年5月以来となる98.114円まで一段高となった。
4日	欧州中銀(ECB)の予想外の利下げを行った他、ドラギECB総裁が追加金融緩和を示唆した事から、ユーロ/豪ドル相場がユーロ売り・豪ドル買いが強まった。これを受け、豪ドル/円は98.573円まで上昇した。
10日	豪ドル/米ドル相場で200日移動平均線(この日は0.9182ドル)を割り込むと、ストップを巻き込みながら下げが加速。これに連れて豪ドル/円は97.40円前後まで値を下げた。ただ、その後は一時マイナスで推移していたNYダウ平均がプラスを回復し、上げ幅を拡大した事を受けて、引け間際に97.875円まで反発した。
11日	豪8月雇用統計は失業率が6.1%、非農業部門雇用者数は12.10万人増と予想(6.3%、1.50万人像)大幅に良好な結果となった事を受け、豪ドル/円は98.339円まで急騰。ただ、その後は豪統計局がサンプルの見直しが結果に影響した可能性があるとして説明し、今回の雇用統計に対して懐疑的な見方が広がった事から買いの勢いは続かなかった。
15日	前週13日に発表された中国8月小売売上が前年比+11.9%、8月鉱工業生産は同+6.9%と予想(+12.1%、+8.8%)大きく下回った。中国経済の減速を嫌気して週明けの豪ドル/円は前週終値から40銭近く安く始まると、その後96.398円まで一段と下落。ただ、売りの勢いが一服すると反発した。
25日	米国株が全般に軟調な展開(新製品に不具合が報じられたアップル株の下落が主導)となり、豪ドル/円が下落。塩崎厚労相が「年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)改革法案の提出を急ぐ事はない」と発言した事も円買いを誘った。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	15454.59
HIGH	16374.14
LOW	15440.99
CLOSE	16173.52

NYダウ平均

OPEN	17097.42
HIGH	17350.64
LOW	16934.43
CLOSE	17042.90

上海総合指数

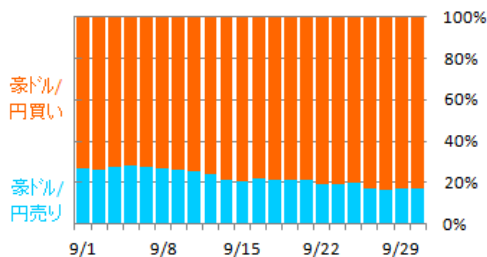
OPEN	2220.129
HIGH	2365.491
LOW	2217.685
CLOSE	2363.870

豪10年債利回

OPEN	3.2980%
HIGH	3.7430%
LOW	3.2850%
CLOSE	3.4800%

9月のポジション動向

豪ドル/円ポジション指数



10月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米9月雇用統計(3日)
- ・日銀金融政策決定会合(6-7、31日)
- ・RBAキャシュターゲット(7日)
- ・豪9月雇用統計(9日)
- ・中国7-9月期国内総生産(21日)
- ・RBA議事録(21日)
- ・豪7-9月期消費者物価(22日)
- ・米FOMC(28-29日)
- ・主要国株価
- ・国際商品価格

10月の見通し

今月、豪州の最大の貿易相手国である中国で、7-9月期国内総生産(GDP)が発表される。今年の同国GDPは1-3月期が7.4%、4-6月期は7.5%であった。足元で中国経済の減速懸念がくすぶる中、もし中国政府が掲げる今年のGDP目標(7.5%)を下回る伸びに留まるようだと、同国経済の減速が嫌気されて豪ドルが売られる可能性がある。

また、先月の豪ドルは、対米ドルで米FOMC声明がタカ派的内容になるとの観測などから全般的に米ドル高が進んだ影響もあり、月を通して軟調に推移した。今月の米FOMCでは量的緩和の終了が確実視されており、利上げ開始時期を巡って思惑が出やすい。仮に豪ドル/米ドルが大きく下げる事があれば、豪ドル/円の上値を重くする事も考えられる。豪ドル/米ドルの行方にも注意したい。(川畑)

(予想レンジ: 92.600~97.900円)

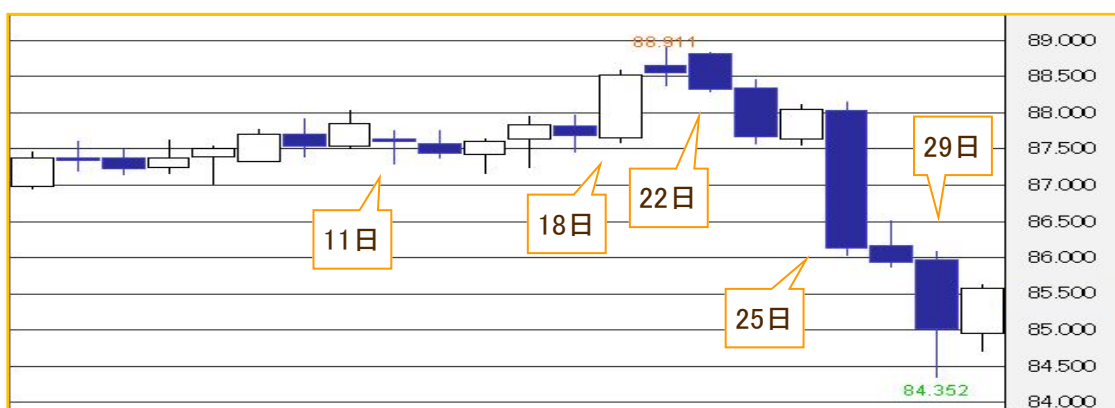
NZドル/円 9月の推移

NZD / JPY

9月のNZドル/円相場は84.352～88.911円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.7%の下落(NZドル安・円高)となった。

前半から中旬にかけてNZドル相場を動かす手掛かり材料が見当たらなかった上、英国のスコットランド独立に関する住民投票を巡る不透明感から様子見ムードが広がったことから、87円台を中心とするもみ合いが継続。

しかし、18日の投票でスコットランド独立が否決された事を好感して株高が進むと89円目前まで上昇するも、その後はRBNZが異例の声明を出したのを始め、キーNZ首相がNZドル相場の水準に言及した事や、RBNZが8月に介入を実施していた事が明らかとなったことから、相場は大きく下落。29日に2月以来となる84.352円の安値を付けた。



四本値

OPEN	86.998
HIGH	88.911
LOW	84.352
CLOSE	85.582

11日	RBNZは事前の予想通り、政策金利の据え置き(3.50%)を発表。声明で「NZドルの水準は不当かつ持続不可能であり、さらに大幅下落すると予想する」とした他、ウィーラーRBNZ総裁は会見で「市場は次の利上げが来年4月と予想している」「インフレ圧力は中銀予想よりも小さい」との見方を示した事も重石となり、NZドル/円は取引開始直後に前日終値から約30銭下落した。
18日	NZ4-6月期国内総生産(GDP)が前期比+0.7%、前年比+3.9%と予想(+0.6%、+3.8%)を上回る伸びを示した事や、日経平均の上昇による円売りの流れを受け、NZドル/円は上昇。NYダウ平均が17200ドル台に乗せると、88.597円まで一段高となった。
22日	前週20日に実施されたNZ総選挙において、キー首相率いる与党・国民党が過半数の議席を獲得する圧勝となった。これを好感してNZドル/円は取引開始直後に88.846円まで上昇。ただ、その後は本邦株価やNYダウ平均の下落が重石となり、88.303円まで反落した。
25日	ウィーラーRBNZ総裁が「実効為替レートは持続可能な水準をはるかに上回っており、短期的な景気循環要因によって正当化される水準も超えている」などとする声明を発表。RBNZが異例の声明を出した事により市場ではNZドル売り介入観測が高まり、NZドルが急落。米国株が全般に軟調な展開(新製品に不具合が報じられたアップル株の下落が主導)した事や、塩崎厚労相が「年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)改革法案の提出を急ぐ事はない」と発言して円買いを誘った事も重石となり、NZドル/円は86.050円まで一段安となった。
29日	キーNZ首相が「NZドルのフェアバリューは0.65ドル」とNZ相場の水準に言及してNZドル高を牽制した事や、RBNZが8月に2007年7月以来最大のNZドル売り介入を行っていた事が明らかとなると、NZドル/円は今年2月以来となる84.352円まで急落。ただ、その後は安倍首相が所信表明演説でデフレ脱却を目指す事を受けて円売りが強まると、85.20円台まで値を戻した。

NZD/JPY

日 経 平 均

OPEN	15454.59
HIGH	16374.14
LOW	15440.99
CLOSE	16173.52

NYダウ平均

OPEN	17097.42
HIGH	17350.64
LOW	16934.43
CLOSE	17042.90

上海総合指数

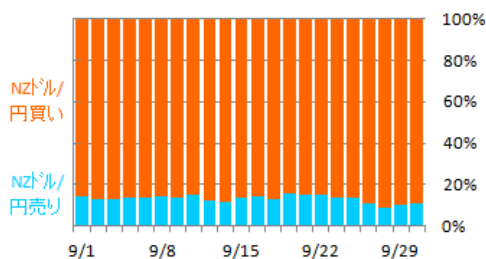
OPEN	2220.129
HIGH	2365.491
LOW	2217.685
CLOSE	2363.870

NZ10年債利回

OPEN	4.0670%
HIGH	4.2950%
LOW	4.0560%
CLOSE	4.1400%

9月のポジション動向

NZドル/円ポジション指数



10月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・NZ乳業大手フォンテラ入札(1日、15日)
- ・米FOMC(28-29日)
- ・米9月雇用統計(3日)
- ・主要国株価
- ・日銀金融政策決定会合(6-7、31日)
- ・国際商品価格
- ・中国7-9月期国内総生産(21日)
- ・NZ7-9月期消費者物価指数(23日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレートの発表(29日)

10月の見通し

NZ国内では今月、7-9月期消費者物価指数の発表が予定されている。前回(4-6月期)は前年比+1.6%と、RBNZのインフレーションターゲット(年1~3%)の中央値を下回った。今回も低めの伸びに留まるようだと、金利据え置き期間が長期化するとの思惑からNZドルが売られやすいと見る。また、RBNZオフィシャル・キャッシュレートの発表について、市場では年内は金利を据え置くと見られていることから、今回は利上げ再開のタイミングを知る上で声明に市場の関心が集まりそうだ。また、先月はNZ政府要人からNZドル高を牽制する発言が相次いだ事を受けてNZドルが下落しており、NZドル相場について言及があるかも注目したい。

また先月のNZドルは、対米ドルでは米FOMC声明がタカ派的内容になるとの観測などから全般的にドル高が進んだ影響もあり、月を通して軟調に推移した。今月の米FOMCでは量的緩和の終了が確実視されており、利上げ開始時期を巡って思惑が出やすい。仮にNZドル/米ドルが大きく下げる事があれば、NZドル/円の上値を重くする事も考えられる。対米ドルの行方にも注意が必要だろう。(川畑)

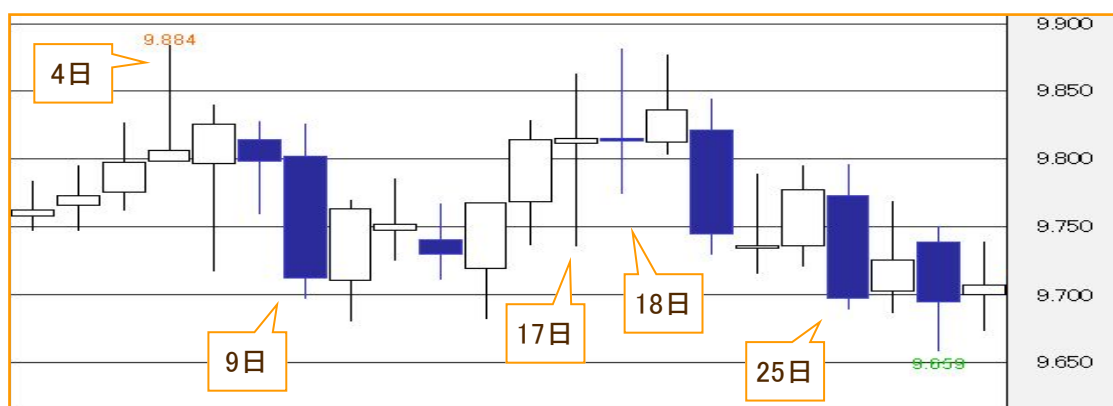
(予想レンジ: 82.100~87.300円)

ランド/円 9月の推移

ZAR/JPY

9月のランド/円相場は9.659～9.884円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.5%の下落(ランド安・円高)となった。

月を通して相場を動かす決定打に欠けたため、9.60円台～9.80円台でもみ合いとなった。本邦の年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)改革に絡み円売りが進んだ一方で、同時に米早期利上げ観測を背景とするドル買いを受けて金などの資源価格が下落したためランド売りも進行。ランド/円はこれらに挟まれて方向感が出なかった。



四本値

OPEN	9.758
HIGH	9.884
LOW	9.659
CLOSE	9.707

4日	欧州中銀(ECB)の予想外の利下げを受け、ユーロ/ランド相場でユーロ売り・ランド買いが強まった影響から、ランド/円は9.884円まで上昇するも一時的となり、その後はユーロ/円相場でユーロ売り・円買いが強まった影響を受けて反落した。
9日	南ア4-6月期経常収支が2220億ランドの赤字と対国内総生産(GDP)比で6.2%に達した。事前予想(2010億ランドの赤字、5.5%)より弱い結果を受けてランド売りが優勢となった。NYダウ平均の軟調推移も重石となり、ランド/円はその後9.698円まで下落した。
17日	南ア8月消費者物価指数が前年比+6.4%と予想(+6.3%)をも上回る伸びが示され、また、南ア7月実質小売売上高が前年比+2.4%と予想(+1.2%)を上回った事が伝わったが、いずれもランド/円相場への影響は限定的。その後は米連邦公開市場委員会(FOMC)で金利見通しを上方修正した事を受けてドル買いが強まったため、ランド/円はドル/円とドル/ランドの上昇に挟まれて値動きの荒い展開となった。
18日	前日に発表された南ア8月消費者物価指数がSARBのインフレ目標の上限(年6%)を大幅に超えた事から、一部で0.25%利上げ観測がくすぶる中、SARBは大方の予想通り政策金利の据え置き(5.75%)を発表。また、声明で2014年の経済成長見通しを1.5%(従来1.7%)、2015年は2.8%(同2.9%)にそれぞれ下方修正した。これらを受け、直後の市場はランド売りで反応した。なお、会見の際にマーカスSARB総裁は「今回が私にとって最後の会合」と発言し、11月の任期満了での退任を表明した。
25日	米国株が全般に軟調な展開(新製品に不具合が報じられたアップル株の下落が主導)した事や、塩崎厚労相が「GPIF改革法案の提出を急ぐ事はない」と発言して円買いを誘った事から、ランド円は9.690円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

日 経 平 均

OPEN	15454.59
HIGH	16374.14
LOW	15440.99
CLOSE	16173.52

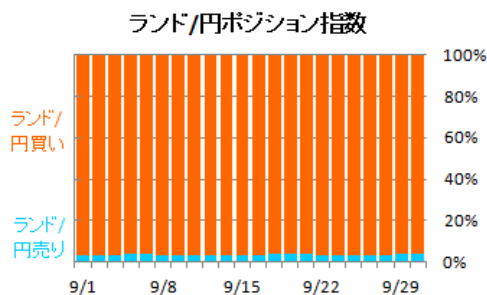
NYダウ平均

OPEN	17097.42
HIGH	17350.64
LOW	16934.43
CLOSE	17042.90

N Y 金

OPEN	1287.60
HIGH	1290.00
LOW	1204.00
CLOSE	1210.50

9月のポジション動向



10月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米9月雇用統計(3日)
- ・日銀金融政策決定会合(6-7、31日)
- ・中国7-9月期国内総生産(21日)
- ・南ア9月消費者物価指数(22日)
- ・米FOMC(28-29日)
- ・SARB次期総裁の行方
- ・主要国株価
- ・国際商品価格

10月の見通し

先月のランド/円は、9.80円台上げに何度かトライするも突破できず、月足は陰線引けとなった。頭打ちの背景には、対米ドルでは米FOMC声明がタカ派的内容になるとの観測などから全般的にドル高が進んだ影響から、ドル/ランド相場が月を通して堅調に推移(＝ランド安)した事や、積極的なランド買い材料が見当たらなかった事がありそう。南ア経済を取り巻く状況を確認すると、先月SARBが今年と来年の同国の経済成長見通しを引き下げた事や、主要な輸出先である中国や欧州の景気減速が懸念されている事など、依然として厳しい状況である事に変わりはない。このため、積極的なランド買い材料が出ない限り10円の台を越えるのは容易ではなさそう。仮に先月安値(29日に付けた9.659円)を割ると、レンジ下抜けとの見方から下値模索の局面に入る事も考えられる。

なお、先月末時点で次期SARB総裁は未定となっている。次回会合まで1カ月半程の余裕があるとはいえ、総裁人事が難航するようだとランド相場の波乱材料となり得るので注意したい。(川畑)

(予想レンジ: 9.300～10.000円)